

社会>第6学年>(2)我が国の政治の動き

だれもが住みよいまちづくりを考えよう〔羽曳野市立高鷲小学校〕

⇒参考：単元計画

ねらい (つけたい力)

- 政治について自らの生活に直結するテーマを通して考え、社会を構成する一員としての自覚を持つ

取組みの概要

① わたしたちのまちは、どんなまちだろう？

- ・信号や歩道橋、公園、図書館やホールなどの施設等、暮らしと政治とのかかわりについて調べる。
→自分の生活にかかわりの深いことから、知りたいことや疑問を見つけ、考えさせたい。

② 住民の願いと政治のはたらきは、どのようにかかわっているのだろう？

- ・羽曳野市政にかかわる資料等から、住民の願い、議会・役所、税金・選挙などについて調べる。
- ・役所などの施設への訪問や、ゲストティーチャーによる聞き取りの活動をする。
→自分の住む市の取組みから、地方公共団体の政治のしくみやはたらきを理解させたい。

③ 日本国憲法は、わたしたちの暮らしとどうかかわっているのだろう？

- ・日本国憲法の三原則について、自分たちの暮らしと照らし合わせて考える。
→政治を決めるのは自分たちであり、そのために、たくさんの権利や義務があることに気付かせたい。

④ よりよい羽曳野市について考えよう！

- ・インタビューやアンケートで地域の人々の「願い」を収集し、「よりよいまちづくり」について考え、議会のシミュレーション形式で発表する。
→生活と政治の関係について、自分なりの考えを他者との意見交流を通してまとめさせたい。

★発展★ 総合的な学習の時間（ボランティア活動）と関連させて、地域の公共施設や福祉施設を訪問し交流活動を行うことで、この学習内容をより実践的にとらえさせる。

工夫など

- 体験活動やシミュレーションを多く取り入れ、政治をより主体的なものとしてとらえさせる。
- 資料や調査結果をもとに筋道立てて他者と考えあうことで、情報整理や表現する力を養わせる。

授業を終えて

- 地域の人々との聞き取りや交流、実際に議会を開いてみた体験により、子どもたちが主体的に学ぼうとする意欲が高まった。その意欲の高まりが、思考力、表現力の向上へ結びついていったと強く感じた。